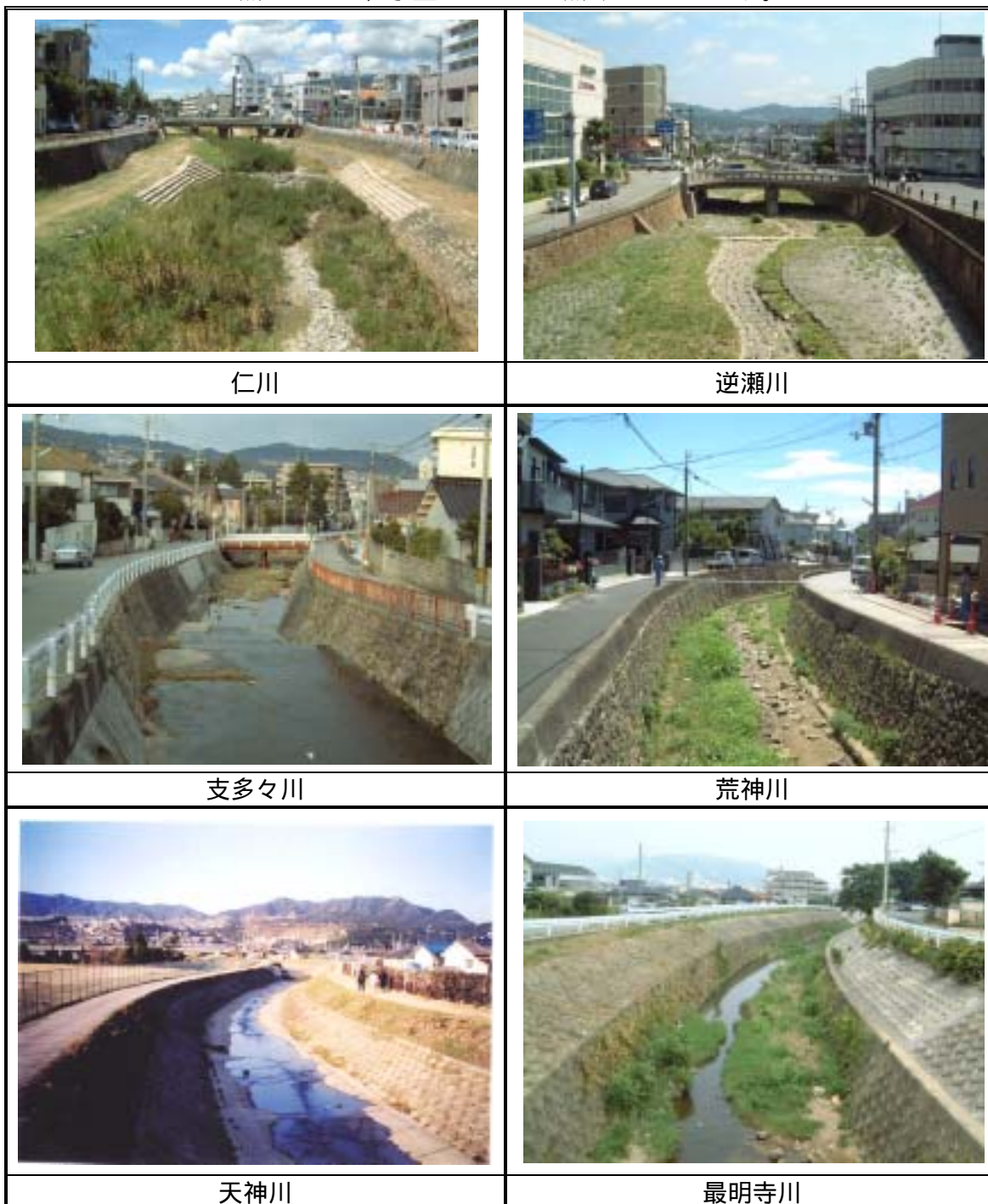


II 宝塚市域の現状と課題とその原因

1 宝塚市域の水環境の課題

(1) 普段の川の水が少ない

宝塚の南部市街地を流下する武庫川水系、猪名川水系の河川の多くは、市民が最も身近に川に接することができると考えられます。しかしながら平地部では天井川を形成しているため、周辺の地盤高よりも河床が高く、地下水と河川水とのつながりがほとんど無いといえ、水量がほとんど無くなっています。



(2) 親水空間が乏しい

宝塚市の河川は、前述の通り水量が少ないため、親水空間として利用されることは少ないといえます。また、宝塚市の水辺の特徴としてため池が多く点在することが挙げられますが、その多くは安全上の観点から水辺に近づけないようになっています。



(3) 浸水被害が発生する

宝塚市では公共下水道雨水排水施設を順次整備していますが、急速な都市化や異常気象による局地的な集中豪雨などにより浸水被害が発生しています。

| | |
|---|--|
|  |  |
| <p>向月町 (H9.7.13)</p> | <p>向月町 (H9.8.5)</p> |
|  |  |
| <p>星の荘 (H11.9.15)</p> | <p>星の荘 (H11.9.22)</p> |
|  |  |
| <p>御殿山 (H9.8.5)</p> | <p>仁川高丸 (H9.8.5)</p> |

2 宝塚市域の水環境の課題が生じる原因

宝塚市域を流域の現状から市街化の進行が著しく、人口の多い南部市街地（ブロック～ブロック）と農地・山林が多く残されている西谷地区（ブロック）の2つの地域に分けています。このような特徴より、水環境の課題と原因を、2つの地域と市域全域に整理しています。

南部市域に共通する課題として、「普段の河川・水路流量の減少」、「降雨時の流出量の増加」があげられます。その原因として、「山林の伐採による山の保水能力の低下」、「都市化・農地の宅地化等による不浸透域の増加」があげられます。

一方、水環境・親水の視点からは、「ため池の保全・管理・有効利用が出来ていない」、「水に親しみ、集まれる空間に乏しい」、「水辺に近づきにくい」などが課題としてあげられます。その原因としては、「生活様式の変化に伴い兼業化が進み、農業従事者が減少している」、「水路が整備され、比較的多くの水が流れているにもかかわらず、それを水環境の整備に有効に利用されていない」、「普段の河川・水路の水量が少ない」、「水辺には危険もあるため、水辺に近づきにくくしてある」などがあげられます。

表 1 市域の水環境における課題と原因

| 地域 | 課題 | 原因 |
|----------------------|---|--|
| 南部市街地 (ブロック～ブロック) | ○ 普段の河川・水路流量の減少 ○ 水辺に自然が乏しい | ○ 開発等により山林の減少 ○ 都市化・農地の宅地化等による不浸透域の増加 ○ コンクリート・ブロックによる水辺・護岸の整備 |
| | ○ 親水性に乏しい ○ 水に親しみ、集まれる空間に乏しい ○ 水辺に近づきにくい | ○ 普段の河川・水路の水量が少ない ○ 水環境が有効利用されていない ○ 水辺には危険もあるため、水辺に近づきにくくしている |
| | ○ 浸水被害が生じる箇所がある。 ○ 降雨時の流出量の増加 | ○ 雨水排水施設（雨水下水道）の未整備 ○ 実績の降雨量に対して計画されている雨量が小さい ○ 雨水の流下速度の増加、流出時間の短縮により流出量の先鋭化 ○ 伐採・開発による山林の減少 ○ 都市化・農地の宅地化等による不浸透域の増加 |
| 西谷地区 (ブロック) | ○ 川下川貯水池、千刈水源池など武庫川水系の水源に位置し、多くの水源林を抱えるが、里山・森林の維持管理が困難で荒廃している | ○ 山林の所有者・管理者の高齢化・減少 |
| | ○ 多くのため池を親水空間として利用できていない | ○ ため池の数は多いが、川の上流部に位置し、生活の場から離れている |
| | ○ 僧川が洪水時に武庫川の水位の影響で水が溢れる ○ 武庫川沿の武田尾地区が浸水する。 | ○ 僧川の護岸高不足 ○ 武庫川の流下能力不足 |
| 全市共通 | ○ ため池の維持・管理が出来ていない | ○ 都市化による農地の減少 ○ 農業従事者の減少 |
| | ○ 取水量のうち約半分を地下水に依存している。 ○ 取水量がわずかながらも増加傾向にある。 | ○ 人口の増加による必要水量の増加 ○ 多量消費型の生活様式 |

注 は環境・ は親水・ は治水・ は環境と親水・ はそれ以外に関する課題と原因を示す。